

点滴療法研究会の門を叩きまして、はや 10 年余の年月が過ぎました。今年はたくさんのニュースが飛び交い 私ども点滴療法研究会の取り巻く環境は大きな波が打ち寄せた一年であったかと存じます

今年初め新年のシンポジウムでお話しさせて頂く機会を頂きました。釈迦に説法とは存じますが 安心して治療を受けられる環境と対策について私なりの考えをお話しさせて頂きました。たくさんの先生方にご清聴頂き感謝に堪えません。内外の先生方の中にはアンチの方も多くおられます。きちんとしたエビデンスが出ているにも関わらず、いまだ一般メディアでもネガティブキャンペーンを張って叩きに回る医師も大学教授もいます。行政監督の目も以前に増して厳しさを伺わせる出来事もありました。

2 月に新型コロナウイルスの集団感染を起こして横浜港寄港中のダイヤモンドプリンセス号内を暴露して大変な注目を集めた神戸大学医学部教授 岩田健太郎先生氏が、2017 年 7 月 11 日付のメディカルトリビューンに「ビタミン C の大復活来るか!？」と題して寄稿している記事がありました。氏は本文中には高濃度ビタミン C 点滴療法については胡散臭く感じるとネガティブに触れているのでアンチであることは明らかなです。

重症感染症で敗血症を引き起こしている患者にステロイドと高濃度ビタミン C とチアミン (ビタミン B1) を併用したところ、死亡率を劇的に減少させることができたという Marik の仕事を紹介しています。

Marik PE, et al. Chest 2017; 151 (6) : 1229-1238. doi: 10.1016/j. chest.2016. 11.036. Epub 2016 Dec 6.

氏はさらにビタミン C の可能性について他の幾つかの文献も紹介したうえで、最後にこう結んでいます。「僕の手元にある論文だけでは、これらの質問に答は出ない。必要なのはただ 1 つ。質の高い臨床研究による実証、あるいは反証であろう。」

こうしたアンチに対して今年初めの私の講演で強調したかったのは臨床において点滴療法に対して不信を招くことのないよう、常に医療安全と院内感染対策、そして何より有効な点滴療法の症例を積み重ねていくこと。これらに地道に努力するしかありません。

その後、コロナは国内はおろか全世界で感染拡大し、活動自粛、行事開催がことごとく中止となり、ついには東京 2020 も延期されるという事態となりました。

今年後半に経済再生の名のもと新しい生活様式の掛け声で Goto が始まり、人々の往来が再開、紅葉の便りが届く頃は観光地も人々の行き来が戻ってきていると伺っております。

そうした中、会長の柳澤厚生先生があらゆる媒体を通して新型コロナ肺炎に対する治療法として高濃度ビタミン C 点滴療法が試みられ一定の成果を挙げたという情報提供は私ども会員にとりましても大変心強く、そしてまた自分たちが行っている点滴療法は大変有意

義な仕事だと改めて認識することが出来ました。

今年はセミナーがリモートになり、勉強の選択肢が増えました。これもまた歓迎すべきですが、受講生が顔を合わせ生でしか聴けないお話を仰ぎ、午後に時々船を漕ぐ方が有意義な時間を過ごせると思います。来年はそうした機会が戻ることを願って筆をおくことに致します。

朝夕の肌寒さに少しずつ深まる秋を感じます。どうか先生方もお身体ご自愛頂き、来年お目にかかれますことを楽しみにしております。

2020 年 11 月

たかはま歯科医院 高濱 勉